

仕様書

ロボット・AI部

1. 件名

「人工知能技術適用によるスマート社会の実現」の事業化に向けた課題整理業務

2. 目的

「人工知能技術適用によるスマート社会の実現」は、人工知能技術戦略で定めた「生産性」、「健康、医療・介護」、「空間の移動」の3つの重点分野において、人工知能技術の社会実装を推進するための研究開発を目的としている。具体的には、これまで研究開発、導入が進められてきた人工知能モジュールやデータ取得のためのセンサー技術、研究開発インフラを活用しながら、サイバーフィジカル空間を結合した、スマートな社会を実現するための研究開発・実証を行うことを目指す。

2018年度に開始した本プロジェクトは、5年間の事業期間の3年目を迎え、他のプロジェクトから人工知能技術の社会実装を目指す7つの研究開発テーマが加わり、合計で12のテーマで本プロジェクト期間中の事業化に向けた取組みを推進している。

本事業は、プロジェクトのアウトカム目標の達成に向けて、本プロジェクトに参画している12の研究開発テーマ(別紙1)について、今後の各テーマの事業戦略の具体化・精緻化に向けた論点・手掛かりのベースとすべく、各テーマへのヒアリング、実施者との議論等を行い、各テーマが考えるビジネスモデルの明確化、事業化に向けた課題を抽出・整理する各種業務を委託するものである。

3. 内容

内容は以下の通りとする。

なお、詳細な内容については、NEDOと協議し決定するものとする。

(1) 「人工知能技術適用によるスマート社会の実現」を構成する12テーマの出口・ビジネスモデルの明確化

委託先12テーマへのヒアリングを通じ、各テーマ毎に現時点で想定している出口構想を(ビジネスモデル、技術の訴求点、ターゲット顧客、体制、事業戦略、事業計画等)を精査し、明確化する。

(2) 「人工知能技術適用によるスマート社会の実現」を構成する12テーマの出口・ビジネスモデルの課題の洗い出しと整理

(1) を通じて明確化された各テーマの出口構想(ビジネスモデル、技術の訴求点、タ

ーゲット顧客、体制、事業戦略、事業計画等）に対して、各テーマ毎の、出口構想の課題、事業化に向けた論点・懸念点、検討すべき点を洗い出し、整理を行う。

（１）（２）の結果は、各テーマ毎に報告書にまとめると共に、各委託先にフィードバックするための資料も作成する。

4. 業務期間

NEDOが指定する日から2020年10月31日（土）まで

5. 予算額

2,000万円以内

6. 最終報告書

- ・ 提出期限：2020年10月31日（土）
- ・ 提出部数：電子媒体CD-R（PDFファイル形式）1部
- ・ 提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと
<http://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

別紙 1

対象とする研究開発テーマ 12 件は NEDO で公開している

「人工知能技術適用によるスマート社会の実現 プロジェクト紹介」

https://www.nedo.go.jp/library/pamphlets/ZZ_pamphlets_00045.html

および

「次世代人工知能・ロボット中核技術開発」紹介ハンドブック

http://www.nedo.go.jp/library/pamphlets/ZZ_pamphlets_00009.html

の当該ページを参照のこと。

プロジェクト 紹介 掲載ページ	テーマ名
4	MyData に基づく人工知能開発運用プラットフォームの構築
5	AIによる植物工場等バリューチェーン効率化システムの研究開発
6	農作物におけるスマートフードチェーンの研究開発
12	人工知能による脳卒中予防システムの開発・実用化
17	安全・安心の移動のための三次元マップ等の構築
次世代PJ ハンドブック 掲載ページ	テーマ名
167	サイバー・フィジカル研究拠点間連携による革新的ドローンAI技術の研究開発
170	人工知能を活用した交通信号制御の高度化に関する研究開発
171	新薬開発を効率化・加速する製剤処方設計AIの開発
173	データコラボレーション解析による生産性向上を目指した次世代人工知能技術の研究開発
175	判断根拠を言語化する人工知能の研究開発
177	健康長寿を楽しむスマートソサエティ・主体性のあるスキルアップを促進するAIスマートコーチング技術の開発
178	人工知能支援による分子標的薬創出プラットフォームの研究開発